



清野 伸昭

一般社団法人東北経済連合会 副会長

台湾との交流を通じたインバウンド拡大

明治30年1月22日に国の設立認可がおりて山形商業会議所(当時)が設立され、本年1月22日で創立120周年を迎えました。当時、山形市長や市内実業界のリーダーなど19名が発起人となって申請手続きが進められたとの記録が残っており、全国50番目、東北では仙台、青森に次いで3番目の設立となります。以来、明治、大正、昭和、そして平成へと時代が移り変わる中で、戦中・戦後の混乱期をはじめ幾多の困難を乗り越え、常に地域経済の発展を目指してきた諸先輩方のたゆまぬ努力に心から敬意を表します。

昨年、創立120周年記念事業の一つとして台湾との交流促進を山形市に要望し、12月に山形市長の台湾訪問が実現、私も同行してまいりました。台湾は山形県を訪れる訪日外国人旅行者の半数以上を占めており、増加傾向にあります。また、台湾と山形商工会議所との関係は、昭和39年12月に全国に先駆けて「山形県日華親善協会」が設立され、第三代以降の会長を山形商工会議所会頭、副会頭が務めております。さらにこの交流が礎となり、平成5年には台南市の経済団体「台南市進出口商業同業公会」との間で姉妹会の盟約を締結し、相互訪問を繰り返すなど経済・文化・観光面で交流を深めてまいりました。

このたびの台湾訪問は、東北観光推進機構が主催する東北の観光PRイベントへの山形市長出演や、2020年東京五輪・パラリンピックに向けた台湾女子柔道チームの事前合宿誘致、山形商工会議所と山形県日華親善協会が仲介役を担った台南市長との懇談、台南市進出口商業同業公会への創立120周年記念式典招待など盛りだくさんの内容となりました。特に台南市長との懇談では両市の友好協定等の締結実現に向けて動き出すなど、大きな成果があったと感じております。

東北経済連合会が今年1月に策定した「東経連新ビジョン2030『わきたつ東北』」では、東北の目指す姿の実現に向けた3本柱の一つに「交流を加速する」を掲げ、成長するアジア等の域外需要の積極的な取り込みを挙げております。昨年の訪日外国人旅行者が2,400万人を超えて大きな伸びを示していますが、東北地方はそれに追いついておりません。今後のインバウンド拡大を目指し、積極的な情報発信や県域を超えた広域観光ルートの設定などソフト面の充実に加え、ゲートウェイとなる各地の空港や港湾から効率よく東北各地を巡るための道路や鉄道により一層の整備が不可欠であり、東北が一体となって取り組んでいく必要があります。

山形商工会議所といたしましては、台湾との交流を通じたインバウンド拡大や、社会資本の整備をはじめとする提言・要望活動の充実など、より積極的な商工会議所活動を通じて創立120周年の節目の年が意義あるものになるよう取り組んでまいります。

(山形県商工会議所連合会 会長・せい のぶあき)